**職務経歴書**

20\*\*年\*月\*日

〇〇　〇〇〇

**■ 職歴要約**

大学を卒業後、○○○○株式会社に入社し、〇〇の設計開発業務に携わっています。

設計担当者として機構設計から詳細設計、試作業務を\*年間担当後、プロジェクトリーダーとしてプロジェクトの進捗管理を担当しました。

**■ 活かせる経験・知識・技術**

【業務知識】

・〇〇業界の業務知識。企画から設計、量産化までの一貫した生産の知識。

【技術知識】

・2D-CAD（AutoCAD）、3D-CAD（Inventor）を使用した開発経験。

【プロジェクト経験】

・プロジェクトリーダー経験（最大\*\*名規模）

**■ 職務経歴**

**〇〇〇〇株式会社（2013年4月～現在）**

事業内容：家庭用及び業務用通信機器の開発、製造

上場区分：東証一部上場　従業員：\*,\*\*\*名　資本金：\*億\*\*\*\*万円　売上：\*億円　雇用形態：正社員

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **期間** | **業務内容** | **環境** | **役割／規模** |
| 2013年4月～  2015年6月 | 欧米向け　コードレス電話機  機能追加を目的とした商品の機構設計開発を担当   * 機構構造設計、詳細設計、試作 * 部品設計(プラスチック部品、プレス部品) * 外注先金型、部品メーカーとの折衝 * 評価及び対策検討   【実績】  　欧米での現地マーケティング部隊と連携をしながら、追加すべき機能を決定。1年後の製品化に向けて、試作を繰り返しながら開発を行いました。自らも技術的な折衝を行うことで貢献をし、期限通りのタイミングで製品化に至ることが出来ました。 | 2D-CAD（AutoCAD）  3D-CAD（Inventor） | 設計担当／課員2名 |
| 2015年6月～  2018年10月 | 国内向け業務用IP電話機  機能追加を目的とした商品の機構設計開発を担当   * 機構構造設計、詳細設計、試作 * 部品設計(プラスチック部品、プレス部品) * 外注先金型、部品メーカーとの折衝 * 評価及び対策検討 * 弊社マレーシア工場での量産対応   【実績】  　仕様決定から量産化対応まで、一貫した業務を経験致しました。マレーシアでのやり取りを行うために海外出張を経験し、一部英語での技術商談を経験。月間○○個の生産を達成するための仕組みを作ることが出来ました。 | 2D-CAD（AutoCAD）  3D-CAD（Inventor） | 設計担当／課員2名 |
| 2018年11月～現在 | 省電力無線機設計  新デザインによる販売活性化、コストダウンを目的とした  商品の機構設計開発を担当   * 仕様、デザイン検討（デザイン、営業、企画との折衝） * 設計工程管理、スケジューリング、設計業務指示 * 部品設計（プラスチック部品、ゴム部品、プレス部品等）、試作 * 試作評価及び課題対策検討 * 金型メーカー、部品メーカー（主に中国）との折衝 * 金型品の信頼性評価及び課題対策検討 * 弊社台湾工場での量産対応   【実績】  　プロジェクトリーダーとしての管理業務を経験。台湾との対応の中で、トラブルが発生し一度は計画に大きな軌道修正が必要になりましたが、今までの経験を活かして立て直しを図り、無事量産化までのミッションを達成することが出来ました。 | 2D-CAD（AutoCAD）  3D-CAD（Inventor） | 設計リーダー／課員5名 |

**■ 取得資格**

普通自動車免許（2012年1月）

TOEIC:800点（2015年1月）

**■ 自己PR**

別添「自己PR例文集」を参考にご自身のアピールポイントを記載しましょう。

（記入例）

＜チームリーディング経験＞

若手メンバーが多く作業ミスが散見されていたため、週次の進捗・品質チェックから日次チェックに切り替え、メンバーとのコミュニケーション量を増やし、一日当たりの生産効率を最大化出来るよう、マネジメントを実行しました。

＜効率と品質を意識した設計開発＞

納期内で指示された製品を納めるのは当たり前という考えのもと、少ないリソースで最高のパフォーマンスを発揮できるよう作業に取り組んできました。効率化をはかるとともにスピードとクオリティを考えながら業務に取り組んでいます。

＜顧客折衝力＞

顧客折衝、開発メンバーへの技術指導を行う上で、より良い人間関係を構築できるよう努めてまいりました。顧客との折衝においては、最初に自分の意見を述べるのではなく、相手の意見を十分にヒアリングした上で一緒に考え、最適な解が出せるよう努めています。開発メンバーへの技術指導については、開発に必要な業務知識から説明することにより、メンバーが納得感、参画意識をもって開発に従事できるように心がけています。

以上